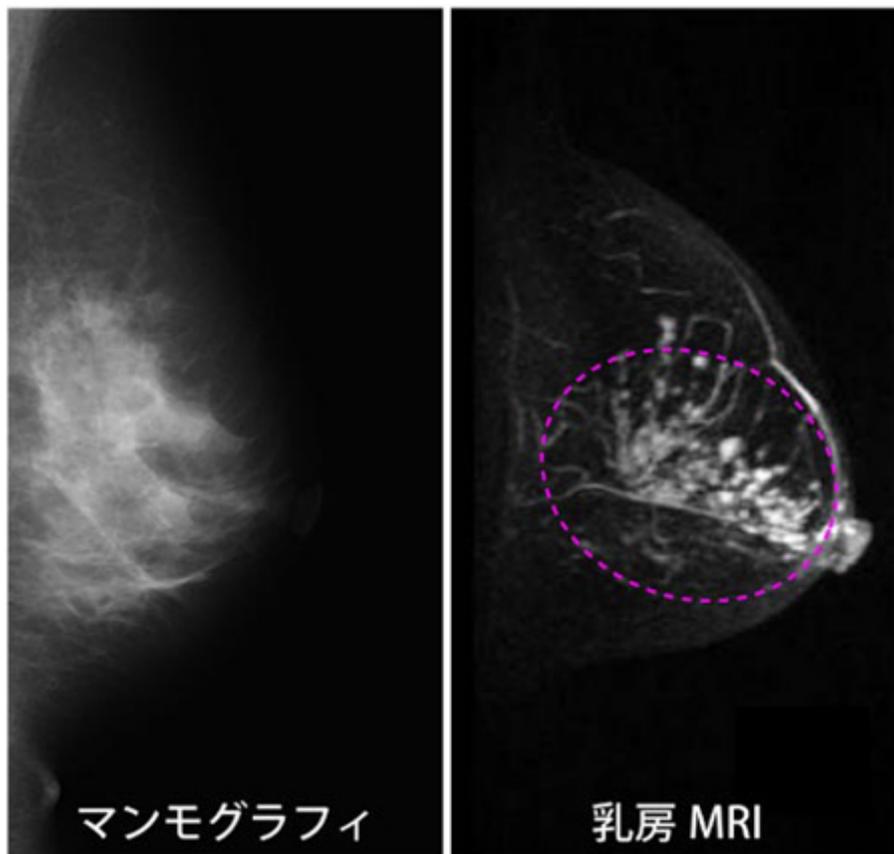


添付資料 MRI でしか描出できない乳がんの実例

<乳がんには MRI でしか検出し得ない病変（MRI-detected lesion）がある>



図左：X線マンモグラフィ / 図右：造影乳房 MRI 画像

X線マンモグラフィ、エコー検査では病変を描出できていない。

造影剤を用いた乳房 MRI 検査では、区域性の病変を認め（non-mass type lesion）内部の造影パターンより小結節の集簇であることが明瞭に描出されている。

<MRI ガイド下乳腺生検>

上記のような病変があることは周知の事実であり、2回目のエコーを用いた精査でも描出が困難な場合があることが知られてきた。欧州の乳房 MRI ガイドライン（Mann RM, et al: Eur Radiol, 2008）では、「乳房 MRI でしか見つけることができない乳がんが存在するため、MRI ガイド下生検は必須の手技である」と明記されており、乳房 MRI 検査を施行する施設は MRI ガイド下生検が行なえる施設である事が推奨されている。

当クリニックが専門性の高い画像診断チームの結成と MRI ガイド下生検実施への準備を同時に行なってきたのもこの考え方に基づいたものである。